

開講年度：2026

科目名	医学概論 Overview of Medicine 2	題目（副題）	早期体験実習
担当教員、教員連絡先内線	森 淳一郎 加藤 沢子	5821	
学年、講義期間、曜日・時限	2 前期（随時） 火曜・2時限		
単位数、講義室	1単位 医学科第1講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 M26カリ・医学、M25カリ・医学、M24カリ・医学、M23カリ・医学 基礎的・専門的な知識と技能 疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。 基礎的・専門的な知識と技能 疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。 プロフェッショナリズム 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。 プロフェッショナリズム 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。		
臨床実習前の到達目標	・患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントなどの意義と必要性を説明できる。 ・患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を説明できる。 ・適切な態度で診断治療を行うことができる。 ・コミュニケーションの方法と技能およびその及ぼす影響を概説できる。 ・良好な人間関係を築くことができる。 ・患者・家族に共感することの重要性について概説できる。 ・医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる。 ・医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる。		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、健康長寿、キャリア		
全学横断特別教育プログラム			
授業のキーワード	プロフェッショナリズム、一次救命措置（BLS）、男女共同参画、少人数、フィールド学習 実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	A-1-2) 患者中心の視点 常に患者中心の立場に立つ態度を身に付ける。 A-4-1) コミュニケーション 患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身に付ける。 1. 社会人として、さらには未来の医師として、患者さんおよびご家族の前で常識のある服装・行動・礼儀作法を実践できる。 2. 患者さんや医療スタッフに対して誠実に、支援・癒しの心をもって接することができる。 3. 患者が求めている医療について傾聴できる。 4. 病院における患者さんの個人情報管理の原則を説明することができる。 5. シミュレータにて一時救命措置を実行できる。 6. 院内各部門の役割を理解し、病院機能を説明することができる。		
テキスト、教材、参考書	1. 患者さんに不快感を与えないアイロンがけされた清潔な白衣を各自で用意し着用すること。 解剖実習で使用した白衣の着用は厳禁とする。		
履修上の注意	オリエンテーション実施日：9月8日（火） 実習日：9月14日、15日、16日、17日、18日の5日間 1. オリエンテーションには、全員出席すること。欠席者には実習への参加を認めない。 2. 清潔で動きやすい服装にて実習に参加すること。Tシャツ、ミニスカート、短パン、サンダルでの実習参加は認めない。 一次救命実習では心臓マッサージ等の練習を行うため、それに応じた服装とすること。 3. 病院での実習になるため、発熱、吐き気、下痢などの症状がある場合には必ず申し出ること。 4. 外来患者体験実習では、男子学生はネクタイとスーツまたはブレザー着用、女子学生は男性のネクタイ着用に準ずる正装を、また、他の実習では清潔な白衣を着用すること。 5. 附属病院内での飲食は禁止とする。飲食をする際は、原則として医学部構内へ戻ること。 6. なお、当日の態度や服装が実習参加にふさわしくない場合には、その場で実習の中断を申し渡すことがある。また、この場合の救済措置は講じていないため注意すること。		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	1. 学生はグループに分かれカリキュラムをローテーションする。 実習グループによって集合場所、時間が異なるため注意してください。 2. 外来患者体験実習は、附属病院外来を受診予定の患者さんを離院するまでエスコートする。 遅刻した場合は実習に参加することはできない。		

授業の形式，視聴覚機器等の活用	同日午後に旭総合研究棟9階C講義室で、患者体験実習の報告会をスモール・グループ・ディスカッション形式で行う。報告会の終了時にレポートの課題を提示する。 3. 一時救命措置実習は、シミュレーターを用いての実習をおこなう。 4. 他の病院内実習中は、附属病院内の各部門を訪問し、その業務についての説明を含めた実習を行う。
成績評価の方法	1. すべての実習を行うことを単位認定の要件とする。（病気等やむを得ない理由により実習を行えなかった学生は後日別メニューの授業を行い、単位取得のための機会を与える。） 2. 各実習への参加態度およびレポートを総合的に評価する。 救命救急実習ではBVM換気及び心肺蘇生法の技能を評価する。 患者体験実習では診療に関する総合的スキル・患者に寄り添う態度を学び、事後報告会において学んだ内容を発表する。発表内容を評価する。 【授業アンケート】 授業アンケートは患者体験実習のまとめ時に実施する。
成績評価の基準	実習の態度については、与えられた課題に対して取り組み、目の前の問題を解決しようとする姿勢があるか、また、医学生に求められる態度、振る舞いを病院内で発揮できたかを評価する。 レポートについては、患者目線を共有できていたかを評価する。 評価は可（優扱い）/不可の判定のみを行う。 不参加、未提出があった場合および実習態度に問題があった場合には不可とする。 レポートに問題があった場合には、担当した患者の状況等についてヒアリングを行い、可否を判断する。 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	1. 一時救命措置については、実習前に資料を確認、予習しておくこと。 当日は、資料内容を知っているものとして実習を行う。 2. 患者体験に係る課題については、授業中に指示をする。 本授業の単位修得には15時間分の時間外学習が必要です。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問，相談への対応）	皆さんは、未来の医療人をめざすこれからの日本を背負って立つ若者です。現代社会においては、それにふさわしい態度、コミュニケーション能力、倫理感、しっかりしたモチベーションに基づく継続的学習が強く求められています。 この実習では、医療現場での医師の活動の様子や医療を支える人たちの協働の実際、患者さんの切実な心情に直接触れ、医療人をめざす若者として望ましい人格を涵養することが目標です。 相談は医学教育研修センターへ。